

## 大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	21	大学等名	長崎大学
テーマ	テーマ I・II 複合型		

### 【総括評価】

A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

### 【コメント】

<優れている点>

- ・既存のシステム、調査手法の修復、整備など、大学改革を目指した教育環境整備が順調に進められていることは評価できる。また、「ティーチング・ティップス」の作成など、アクティブ・ラーニング（AL）の専門教育への波及を目指した取組や、高大接続事業、入学時の学生調査、企業調査など、入口から出口までの質保証に対応した取組が実施されていることも評価できる。
- ・本取組は全学的な実施体制の下、着実に進捗している。特に、1週間の生活時間記入による学修時間把握、「長崎大学ナンバリング・システム」の統一フォーマットの作成・導入、主体的学修支援促進システム（LACS）への学生ポートフォリオの構築、教学マネジメントシステムの入学から卒業まで一貫した内容への変更は、評価できる取組である。
- ・AL 授業科目責任者への勤勉手当加算は、教員の教育意欲向上につながる取組であり、評価できる。
- ・学生 FD といえる「学生による教育改善のための協議会」の活用は、今後その成果が期待され、評価できる。
- ・全学モジュールを通した AL は科目間連携の要素もあり、全学的に波及されるものと認められ、評価できる。

<改善を要する点>

- ・目標値を達成していない学生の授業外学修時間については、生活時間調査の精査などの確な対応が必要である。また、学修到達度調査の実施率についても、全学としての対応が必要である。
- ・外部評価や種々の調査、アンケート結果の、PDCA サイクルへのより積極的な活用が必要である。
- ・FD・SD についての的確な検証の実施と、より一層の充実が必要である。
- ・本事業の取組内容や成果等の他大学や高等学校等への発信、更には連携について、より積極的に展開する必要がある。
- ・教員と学生による「学びの共同体の形成」を目指し、モジュール方式の教養教育の改革を軸とした教育改革を更に全学的に展開することが必要である。